



校長室だより

令和8年度

6月19日

NO. 11

今、学んでいることはいざという時や将来のためのもの!

「すぐ役に立つことは、すぐ役に立たなくなる。すぐに役に立たないことは、やがて役に立つことになる。」
『50歳から何を学ぶか賢く生きる』教養の身に付け方』(PHPビジネス新書) 池上 彰著



いざという時のための「避難訓練」「防犯教室」。楽しく英語の授業や食育の授業を行いました。

巣立ったばかりのツバメたちが校庭や校舎の間を、速いスピードで飛び回ります。きっと人間の世界では「危ない」と注意されることでしょう。けれど、とても気持ちよさそうに見えるツバメにとつては生きるために必要な訓練なのでしょう。

自然界以上に危機の多い子供にとって、そして安全な学校であるために危機管理は重要なことです。ツバメのようにいきなり世界に飛び出すことはありませんが、様々な災害や犯罪を想定して学校では訓練します。十二日の防犯教室では、子供は全力で逃げたり大声を出したりと訓練をしました。なかなか訓練では危機感を実感することは難しいですが、こうした経験や学びが、あつてはいけない本番に役立ちます。

子供たちは、新しいことや普段できないことに対して興味をもちます。興味があるから挑戦もします。学校生活でも、STやALTとの英語の授業では、(日常すぐに英語を使うわけでは無いですが)子供たちは、どの子もとびきりの笑顔で英語を話したり書いたりして楽しみます。十六日の栄養教諭による食育の授業でも、(すぐに自分の栄養を考え直すわけではありませんが)様々な栄養素について興味をもって学びます。こうした授業も、ある意味、将来への訓練と言えます。

大人がよく言う「そんなことしなくてもいい」「危ないからやめなさい」の危機管理は、子供にとつてその時、実感できるものではありません。中には新しい世界への興味の方が勝ってしまう子もいます。もちろん危ない目に合わせなさいというのではなく、将来、様々な場面や危機に出会った時のために、今は楽しく、新しい世界に一歩足を踏み入れてみる訓練や授業も、子供にとつては必要なものと言えます。

- ・12日には不審者避難訓練と防犯教室を行いました。警察や市役所生活安全課の方に来ていただき、教室に不審者が入ってきたときの避難訓練と、不審者に会ったとき、どうしたらよいかの訓練を行いました。
- ・16日には男川小学校の栄養教諭の松井先生に来ていただいて、食べ物に関する栄養について、低学年と中学年で授業を行いました。食育の一環として、毎月発行の「食育だより」も、松井先生に作っていただいています。よろしければ、ご一読ください。